

〔概要〕

近年買い物に不便を感じる「買い物弱者」問題が深刻化している。買い物支援バスの運行は高齢者にとってモビリティの確保という点で重要な役割を担っている。石川県白山市白山ろく地区ではAコープ手取店が2007年から現在まで毎週火曜日と金曜日の週に2回無料で買い物支援バスを運行している。このバスは自力での移動が困難な地域住民の買い物を支援する目的の他に、金融機関としてJA手取店を利用する際の支援目的もあるが大半の利用者が買い物支援目的で乗車している。本稿では石川県白山市白山ろく地区に居住する8名の高齢者からの聞き取り調査と実際に買い物支援バスに乗車し利用者に直接話を伺う調査を行い、買物が困難な高齢者の買い物行動の実態を把握するとともに、白山ろく地区で運行する買い物支援バスがもつ役割について考察した。その結果、買い物支援バスの利用者はコミュニティ形成の場として利用するというよりも長年暮らした場所への愛着心からその土地に住み続ける手段として買い物支援バスを利用しているということが明らかとなった。

キーワード：買い物弱者， 買い物支援バス， 自立した生活， コミュニティ